

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

・学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	神戸市立多聞東小学校 (フロンティアスクール名)								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	2	3	2	1	16	22
児童数	78	88	83	72	87	73	1	482	

・研究の概要

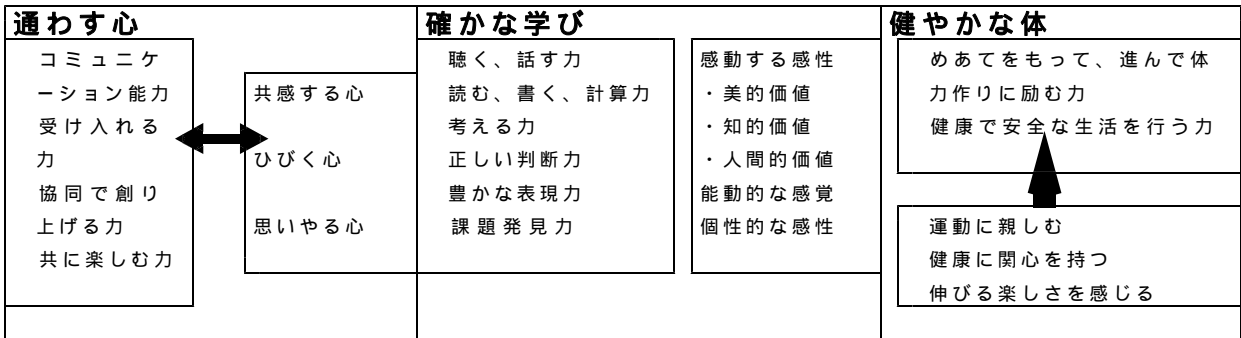
1. 研究主題

効果的な新学習システムの推進
 豊かな心とたくましさを持ち、主体的に学ぶ子供の育成
自立と共生

2003 多聞東小学校教育構想

豊かな心とたくましさを持ち、主体的に学ぶ子どもの育成
自立と共生

明るく やさしく たくましく



その実現に向けて

心の教育の充実 交流教育 人権教育 福祉教育 道徳教育 健康教育 防災教育	体験活動の重視 体験学習 異学年交流 地域とのふれあい	教科指導の充実 わかる授業 ・職員研修の充実 ・教材研究 ・少人数教育 ・教科担任制 表現活動の工夫 ・様々な表現活動の導入 ・表現活動の機会を増やす 体育指導の工夫	基礎・基本の徹底 おはよう読書 朝のスピーチ 漢字マスターズ 計算ジャンプ 音読の習慣	生活基盤の安定 基本的な生活習慣の確立 ・あいさつ、返事 ・ルールを守る ・整理整頓 ・生活のリズム 清掃活動の充実 体力づくり 保護者との連携
あらゆる教育活動の場で 自尊感情 の育成				
達成感	有用感	安定感		
目的意識 課題意識 充実感 燃えるもの	存在感 役割意識 認められている 役にたっている	心の居場所 心の支え 信頼感 ありのままを認め合う		

2. 研究内容与方法

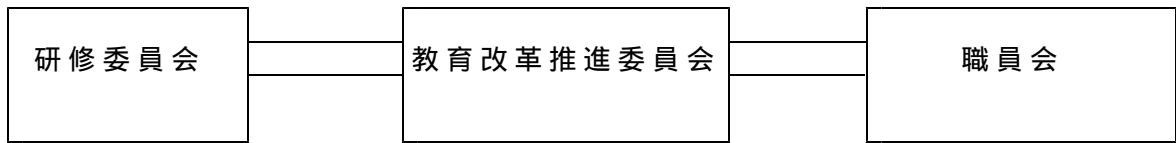
(1) 実施学年・教科

- 3年生算数・国語・総合的な学習（基礎・基本の確実な定着と躰きの早期発見・早期指導が必要となる学年で落ち着いた学習をめざしたため）
- 4年生算数・総合的な学習（学習理解の個人差が大きくなり、躰きの早期発見・早期指導が不可欠となる学年であるため）
- 5、6年生算数・総合的な学習（学習内容が難しくなり、学習理解度の個人差が大きくなる学年で、友達関係がより複雑になるのできめ細かな指導を要するため）

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 該当学年での新学習システムの在り方</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習をすることで、学習効果が上がる。 ・児童に複数の教師が関わることで、個々の児童の持つ特性を伸ばすことができる。 <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導のための指導法・指導体制の工夫・改善 ・基礎・基本を定着させる教材の開発 ・評価を反映させた指導方法の改善 <p>○研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献研究 ・実態の把握と問題点の分析 ・指導法の工夫、指導体制の工夫、教材開発、評価を生かした指導 ・校内研修での研究授業（事前・事後の検討） ・先進校の実践に学ぶ。
平成 15 年度	<p>テーマ 新学習システムを全校に広げる柔軟な工夫</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心を大切に課題別、習熟度別の学習形態にすることで有効性が高まる。 ・加配教員の柔軟な関わりの広がりには有効である。 <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導のための指導法・指導体制の工夫・改善 ・基礎・基本を定着させる教材の開発 ・評価を反映させた指導方法の改善 <p>○研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献研究 ・実態の把握と問題点の分析 ・指導法の工夫、指導体制の工夫、教材開発、評価を生かした指導 ・校内研修での研究授業（事前・事後の検討） ・先進校の実践に学ぶ。
平成 16 年度	<p>テーマ 新学習システムの効果、課題についての検証</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習によって、より学力向上する。 ・教科担任制を取り入れ、複数の目で児童を指導していくことで、個々のよさをより伸ばすことができる。 <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導のための指導法・指導体制の工夫・改善 ・基礎・基本を定着させる教材の開発 ・評価を反映させた指導方法の改善 <p>○方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献研究 ・実態の把握と問題点の分析 ・指導法の工夫、指導体制の工夫、教材開発、評価を生かした指導 ・校内研修での研究授業（事前・事後の検討） ・先進校の実践に学ぶ。 ・評価についての研究も継続して行う。 ・評価についても先進校の実践に学ぶ。

(3) 研究推進体制



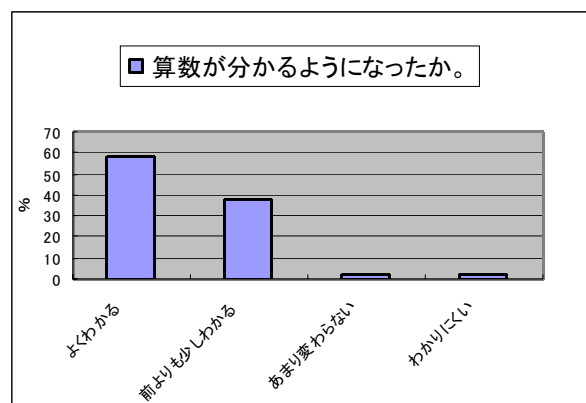
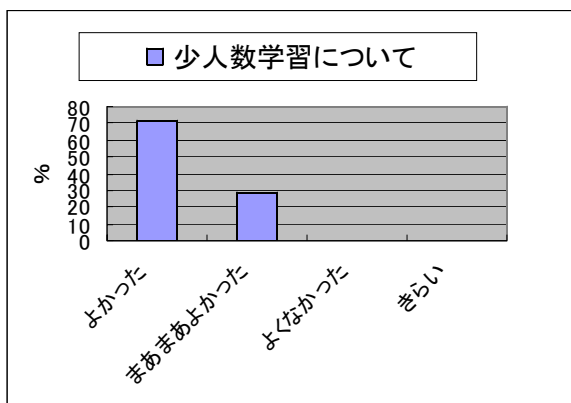
各学年・専科
各 1 名

校長・教頭・研修係
新学習システム教員
3 年、5 年担任各 3 名
4 年、6 年担任各 2 名
音楽、図工担当教諭各 1 名
1 年、2 年担任各 1 名

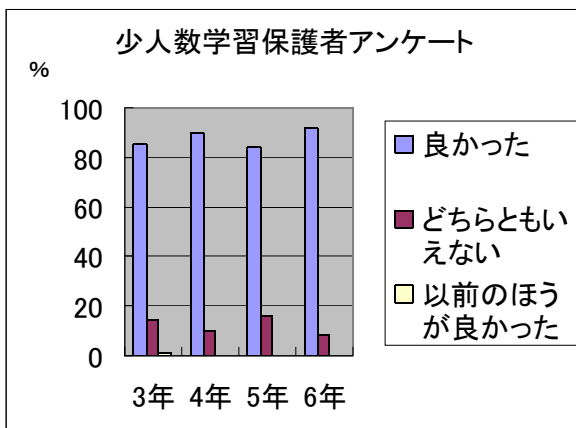
平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

新学習システム児童アンケート (3 年)



保護者アンケート



・ 学習意欲の高まり

3 年児童のアンケートであるが他学年も同様の傾向を示している。保護者も少人数学習については概ね肯定的である。指導教師が増えるため、単元毎に異なった学習形態をとったり、児童の課題や関心に即した多様な集団編成・体験学習がしやすくなり、学習意欲の高まりにつながっている。また、少人数で学習に臨むため、教師や友だちの話が聞きやすく、質問もしやすい。そのため、学習する雰囲気が高まり、児童一人一人の活躍する場面が増え、自ら主体的に取り組む姿勢の向上につながってきた。

・ 学習理解度の高まり

学級の人数が緩和されることにより、落ち着いた雰囲気の中で学習ができ、個に応じた課題設定や指導が可能であった。また、個々の問題点を記録し教師間で情報交換することにより、躓きに早く対応し指導することができた。そのため、学習が遅れがちだった児童の漢字や計算などの力が徐々にではあるがつくとともに、集団全体の学習理解度も増してきた。そして、学習理解が増すとともに習熟を要する練習などへの意欲も高まった。

・ 児童理解の深まり

多様な集団編成での学習により、一人の児童に対して、より多くの教師がかかわることができ、教師間で情報交換することで、児童を従来より多面的

にとらえることができた。その結果として児童理解が深まり、生徒指導など指導に役立つ場面が多くなった。

・授業形態の工夫

カリキュラム中どの単元で、あるいは授業時間の中でどのような学習形態をとれば効果的な学習の場が提供できるのかが、大まかではあるが浮かんでくるようになり、効果的な学習計画を考えることができた。

2. 今後の課題

・学習集団と生活集団の結び付きを持たせたい。

学習集団での児童の高まりや頑張りがその集団の中だけのものとなっていて生活集団の場で生かしていない。そこで、児童相互の参観や授業の交流会を考えている。

・発展的な学習の必要性

少人数できめ細かな授業を行うことで児童の意欲や理解度が高まるにつれよりきめ細かな個に応じた学習内容が必要となる。保護者の理解を深めるよう説明やアンケートなどを行い、課題別学習や単元を通しての習熟度別学習などへ取り組み、個に応じた学習に対する見直しを進めていきたい。

・個別学習の必要性

少人数でのきめ細かな授業により、意欲や理解度は高まってきてはいるが課題を残したままの児童もいる。現在は休み時間や給食前の少しの時間を使って個別に学習を行っている。このような補習学習の時間を確保してさらに支援を進めていきたい。

・学習面と生徒指導面の情報の蓄積

学年ごとに総合点検テストを行い、児童のつまずきの実態を把握すると共に生徒指導上配慮をしなければならない情報を記録し、6年間引き継いでいくシステムをつくり、学習面と生徒指導面の両方から児童理解を深めていこうと考えている。

・研究成果の発信

研究状況・成果を説明会・研修会等で発表するだけでなく、ホームページ上で公開し外部への発信を進めていきたい。また、一部学年の取り組みでなく学校全体としての取り組みという意識の改革・変革がさらに必要であり、打ち合わせや教師間の情報交換だけでなく外部への発信のみならず、内部へも常時発信を進めていきたい。

・学力把握のための学校としての取組

・算数の少人数授業では、単元の途中に自己診断テストなどを行い、児童自身が自分の力を知るとともに、教師が、児童の学習の理解度、定着度を把握している。

・学校全体としての取組は、第一に音読指導を行っている。本校の児童は、読むことの苦手な児童が多くいる。そこで、家庭でも音読練習を行うことと授業の場面でも、一人一人が音読する回数を増やしてきた。そのことで、児童の読む力を教師がより細かく把握することができ、個別指導に役立っている。

・第二に漢字の学習と計算の学習についてである。漢字は、1週間に2、3回定期的に漢字小テストを行ったり、学期に1、2回まとめのテストを行ったりして、定着度を把握している。計算の学習については、その単元の学習時に、計算の小テストやまとめのテストを行い、定着度を把握している。その他の学習についても単元が終了するごとに、まとめのテストを行い、定着度を把握している。

・第三に毎年、年度末に神小研による学力診断テストを行い、学力把握を行っている。

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・全市向け説明会での活動報告
平成15年11月28日(金) 神戸市小学校学力向上フロンティア研修会
- ・随時、神戸市教育委員会に資料提供
- ・他校(他府県を含む)の問い合わせや学校訪問に対応
- ・複数指導研修会での情報交流
- ・学年だより等で保護者への説明・報告
- ・県教育機関紙への情報提供

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		